



佐藤クリスタル

# 国際交流員コーナー

## CIR's Corner

2025年2月 - 第33号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

### 今月のテーマ: グレシャム市のエピソード

1月5日から15日まで、中学生国際交流事業の引率として、江別市の姉妹都市であるグレシャム市に行ってきました。[2024年1月](#)と[2月](#)の国際交流員コーナーで昨年の訪問について細かく日記のように書きましたが、今年は、三つのエピソードをピックアップします。

#### クリスマス飾り



皆さんは、クリスマス飾りをいつ片づけますか？日本では、しめ飾りや門松などのお正月の飾りもあるので、多くの日本人はクリスマスの次の日にすぐクリスマス飾りを片付けるような気がします。一方で、アメリカでは、お正月の飾りが特にありません。クリスマスの曲「クリスマスの12日間」で歌っていますが、

12月25日から1月5日までの12日間は伝統的なクリスマス期間なので、クリスマス飾りを1月6日に片付ける習慣がありました。遅くなると不幸だと特にイギリスで信じられていました。現代のアメリカ人はその伝説をあまり気にせず、1月中旬、下旬までクリスマス飾りを飾っている人は少なくありません。

アメリカに着いたのは1月5日だったので、本当はクリスマスの最後の日でした。空港、町の中、学校など、色々な場所でクリスマスツリーがまだ飾って

ありました。左の写真は乗継便を待っている間に撮った写真です。ホノルルの空港で撮りましたが、外はヤシの木があり、暑いトロピカルな雰囲気だったのに、中はまだホワイトクリスマスでした。

そして、受け入れ学校は冬休みが終わり、1月6日からスタートだったので、クリスマスツリーがまだしまっていないのでした。ホストファミリーとの初対面の写真をクリスマスツリーの前で撮りました。



教室

グレシャム市の教室の様子は日本とかなり違います。まず、アメリカの教育はディスカッションが多いので、生徒が話しやすいように、机は向き合っています。初めてこの四つ葉のクローバーに似ている机を見て、特に面白いと思いました。



そして、アメリカの学校では、先生の休憩室はありますが、日本のように共同で働く職員室はありません。先生たちの働くスペースは自分の教室です。先生の机やパソコンなどは教室の角にあり、一日中自分の教室にいます。日本と違って、先生ではなく、生徒たちが移動します。

先生たちはまるで自分の部屋のように、教室を好きなように飾り付けをします。それで、先生の趣味や個性がわかります。例えば、音楽の先生は、有名な歌手のポスターをたくさん貼っていました。また、じゅうたんを敷き、枕やクッション、ぬいぐるみなどを置き、生徒がくつろげるスペースを提供している先生もいました。そして、教室に備え付けの照明を使わずに、テーブルランプ、フロアランプ、クリスマスツリーに飾るような小さなカラフルなLED電球などで、リラックスできるような暗めの雰囲気を作っている先生がたくさんいました。教室には黒板がなく、先生は大抵スライドショーやビデオなどを電子黒板で生徒に見せているので、教室が少し暗くても、教材は十分見えます。

先生がクッションや照明などで生徒にとって落ち着くような教室を作ることは、先生の趣味と好みだけではなく、もう一つの理由があります。「ニューロダイバーシティ」という単語が最近アメリカで流行っていますが、日本語にすると「神経多様性」という意味です。自閉症スペクトラム障害、ADHD、学習障害や発達障害など、様々な脳や神経を持っている生徒がいます。ですので、多くの先生は生徒の個性を尊重し、生徒にとって落ち着いて勉強できる環境作りが心掛けています。固い椅子と机や眩しい白い照明に敏感な生徒のために、配慮しています。



体育の服装

今回の学校訪問は、二つの中学校に訪問しました。学校によって違うところが多くありましたが、特にびっくりしたのは、体育の服装でした。最初に訪

問した中学校は、私服で体育の授業に参加していました。私が中学生だった時、体育の授業の前で体操着に着替えたので、ジーンズなどで運動している中学生を見て、「苦しそう。動きづらそう。汗をかいて服が臭くなりそう」と思いました。そして、私が中学生だった頃から、色々変わったと感じました。



私服(左)と学校指定Tシャツ(右)で体育の授業を受けている生徒たち

しかし、次の日に、もう一つの中学校に訪問しました。その学校で、体育の授業の前に、ほとんどの生徒は普通に学校の指定Tシャツと動きやすいショーツやスウェットパンツなどに着替えていました。一つ目の学校に戻った日に、校長先生にその違いについて聞きました。「この学校は低所得の家庭が多いため、体操着を購入するのは難しい。そして、中学生は他の生徒の前で着替えるのを恥ずかしがる。体育の参加率を上げるために、この学校は着替えなくて良いことにした。」

なるほど。確かに体操着はお金がかかりますね。私の母はシングルマザーだったので、体育に必要な学校の指定体操着を買うのを苦労した記憶があります。そして、私の中学校と高校にも、更衣室で着替えるのが恥ずかしい生徒がいて、トイレで着替えていました。着替えなくて良い学校であれば、もっと気軽に体育に参加ができたかもしれません。



グレシャム二回目でしたが、今年も様々な発見がありました。来年度の中学生国際交流事業は何を発見するのかわくわくしています。★

お問合せ先  
教育部 生涯学習課 国際交流員  
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6  
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434